

あひま

段戸の山・矢矧の流れ

第58号

2025年8月

会長挨拶



岡崎高校
同窓会会長
増田義彦
(高23回)

愛知県立岡崎高校 同窓の皆様へ

新たな年度を迎えるにあたり、岡崎高校同窓会を代表して、皆さまにご挨拶申し上げます。

まずはじめに、今年度の会報の発送が遅れましたことをお詫び申し上げます。創立130周年記念事業の趣意書と同封する関係で、準備に時間を要しました。ご心配をおかけしましたこと、どうかご容赦ください。

今回お届けする同窓会報「あ、江山」第58号は、約2万5千名の同窓生の皆さまにお送りする大切な通信です。誌面を通じて、学生時代の思い出がよみがえったり、遠く離れた旧友に思いを

馳せたり、今を生きる在校生の活躍に胸が熱くなったり——そんなひとときをお届けできたらと願っています。

さて、令和8年(2026年)に岡崎高校は創立130周年を迎えます。それに向けて、昨年度から記念事業の準備を進めてまいりました。事業の期間は令和7年度から令和9年度の約2年間で、主な目的は次の2点です。詳しくは同封の「趣意書」をご参照ください。

- (1) 現役岡高生が力を発揮できる学びの環境を整えること
- (2) 130年の歩みを振り返る式典や記録を整えること

具体的には、大教室への双方向遠隔コミュニケーション設備の導入や、全年の教室のICT化、教育基金の充実、記念式典などが計画されています。記念式典・講演会は、令和9年度に開催予定です。この節目を共に祝い、母校の未来への歩みにご支援を賜れましたなら幸いです。

今回の事業では、従来の「同窓会活動協力金」や「岡高教育基金」へのご

寄付を「記念事業募金」に一本化し、皆さまからのご協力をお願いすることとしました。

日頃より同窓会活動を支えてくださっている皆さま、またご寄付をお寄せくださった皆さまに、心より感謝申し上げます。

私たちの社会は、大きな転換期にあります。少子高齢化と人口減少、財政赤字の拡大、円安の定着、かつての日本の技術力・創造力の陰り……。加えて、国際的にも地政学的な緊張や情報の分断、ナショナリズムの高まり、そして気候変動など、課題は山積しています。

こうした時代に求められるのは、「正解」を待つ姿勢ではなく、自ら問い、考え、進む力です。確かな「地図」が見えにくい今だからこそ、「何が本当に社会の役に立つのか」「どんな価値が未来へつながるのか」「その情報は信頼できるのか」といった問いに向き合い、自ら答えを見つける力が、私たちの「羅針盤」となるはずす。

日々の暮らしや仕事、学びの中で、多様な人々とつながりながら、それぞれの道を歩んでおられる皆さまの姿に、私は大きな誇りと希望を感じています。そして、この同窓会が、そうした皆さまの支えとなれますよう、微力ながら会長としての務めを果たしてまいります。



令和7年3月22日 段戸山登山の写真

今後ともどうぞよろしくお願いたします。

校長挨拶

着任挨拶



第36代校長
山脇 正成

この度の愛知県教職員定期人事異動により、高井俊直校長の後任として県立岡崎高等学校に着任いたしました山脇正成です。どうぞよろしくお願いたします。

四月の赴任初日、東岡崎駅で下車し、六所神社の池沿いに並ぶ桜の花に迎えられ県高坂を登り、校門をくぐって校長室に入りました。早速、書棚の扉を開けながら過去の資料を見渡してみると、私がこれまでにお世話になった本校の歴代の校長先生方の名前が並んでいました。岩間博先生、杉浦慶一郎先生、竹下裕隆先生、柴田悦巳先生は、私が教育委員会事務局に勤務していた時の上司でもあり、厳しくも温かく指導していただいた日々が思い返されます。早速、先生方に、電話で着任の挨拶をすると、私の着任を歓迎してくださり、同窓会の支援のもと築かれてきた本校の教育活動にまつわる話や、あなたの色でやっていけばよいとの心温まるエールをいただくことができました。さらに歴代校長の中で最も印象に残っている方が芳賀利行先生です。芳賀先生は、私が、本県の教員となり初任者として赴任した西三河地区の新設校の校長として着任されました。私は二年間、芳賀先生から教師の魅力など多くを学ばせていただきましたが、私に「あなたは一所懸命が似合う」と言って下さった言葉や、式典で生徒達に「高嶺の花を持ちなさい」と、夢を持つこと



柴田学業奨励賞受賞者
全日制 団体
コーラス部・登山部
個人
柳本 遙・岡部陽奈・邊見知明

の大切さを語られていたことが思い出されます。今、私は、こうして岡崎高校の校長室の鍵を預かることとなりましたが、創立一三〇周年を迎える歴史と伝統のある本校の校長としての責任の重さと、さまざまな方々とのご縁に対する感謝の気持ちを大切にしていきたいと思えます。私にとつて教諭時代には、高嶺の花と感じていた本校ではありますが、これからは、生徒達が将来それぞれの高嶺の花を手に入れることができるよう、教職員と一丸となつて魅力ある学校づくりに努めたいと存じます。結びに、同窓会員の皆様これまでの本校への多大なるご支援に対しまして深く感謝申し上げますとともに、今後とも、本校の教育活動への御理解と御支援、御協力をお願い申し上げます、就任の挨拶とさせていただきます。

同窓会役員一覧

職名	副会長	監査	書記	会計	常任理事	顧問
増田 義勝	南田 昌邦	内山 史夫	小成 仁史	八木 則章	八坂 欣司	長岡 隆寛
本多 淳彦	田部 義隆	山田 史夫	山田 仁史	木田 則章	田坂 欣司	嶋田 隆寛
多田 淳彦	田部 義隆	山田 史夫	山田 仁史	木田 則章	田坂 欣司	嶋田 隆寛
柴田 悦巳	近藤 善良	藤本 隆寛	川喜 哲彦	松井 美保	嶋田 隆寛	嶋田 隆寛
磯田 尚正	山田 孝啓					
大久保 昭二	清水 昭二					
権田 保昭	権田 保昭	権田 保昭	権田 保昭	権田 保昭	権田 保昭	権田 保昭
植木 佳裕	植木 佳裕	植木 佳裕	植木 佳裕	植木 佳裕	植木 佳裕	植木 佳裕
林 貞千	林 貞千	林 貞千	林 貞千	林 貞千	林 貞千	林 貞千
田村 裕	田村 裕	田村 裕	田村 裕	田村 裕	田村 裕	田村 裕
野田 佳裕	野田 佳裕	野田 佳裕	野田 佳裕	野田 佳裕	野田 佳裕	野田 佳裕
岡田 佳裕	岡田 佳裕	岡田 佳裕	岡田 佳裕	岡田 佳裕	岡田 佳裕	岡田 佳裕
藤宅 昌	藤宅 昌	藤宅 昌	藤宅 昌	藤宅 昌	藤宅 昌	藤宅 昌
保村 昌	保村 昌	保村 昌	保村 昌	保村 昌	保村 昌	保村 昌
根保 昌	根保 昌	根保 昌	根保 昌	根保 昌	根保 昌	根保 昌
澤村 昌	澤村 昌	澤村 昌	澤村 昌	澤村 昌	澤村 昌	澤村 昌
脇井 昌	脇井 昌	脇井 昌	脇井 昌	脇井 昌	脇井 昌	脇井 昌
山脇 正成	山脇 正成	山脇 正成	山脇 正成	山脇 正成	山脇 正成	山脇 正成

校高 2014111567454443424140393837363534333231313028272625242223222120183529282738232321321423

令和7年度 大学合格者数 令和7年4月2日現在 ()内は新卒者の内数

国立大学		公立大学		私立大学	
北海道	7 (6)	佐賀	1	東京女子	
北海道教育		長崎		東京農業	
旭川医科	1 (1)	熊本		東京薬科	2
小樽商科		大宮	2	東京理科	48 (24)
帯広畜産		崎		武蔵野美術	
北見工業		鹿		日本	1 (1)
弘前		児		日本医科	
岩手		島		聖マリアンナ医科	
東北	1	琉	1 (1)	日赤看護	
山形		球		法政	6 (3)
秋田		その他		明治	40 (17)
茨城		合計	232 (185)	明治学院	
筑波	5 (5)	公立大学		明治薬科	1
宇都宮		札幌医科	1 (1)	明治薬科	1
埼玉	1	国際教養		立教	8 (5)
千葉	2 (2)	高崎経済	1	早稲田	31 (24)
東京外国語	1 (1)	東京都立		東洋	
東京	20 (18)	横浜市立		岐阜聖徳学園	
東京学芸		都留文科		金沢医科	2
東京海洋		長野		金沢工業	
東京農工	1 (1)	岐阜薬科	1	常業	8 (7)
東京科学		静岡文化芸術		愛知	
東京芸術		愛知県立芸術	2 (2)	愛知医科	12 (2)
一橋	1 (1)	愛知県立	2 (2)	愛知学院	
お茶女子		名古屋市立	22 (19)	愛知工業	6 (6)
横浜国立	7 (5)	滋賀県立		愛知淑徳	1 (1)
新潟	1	和歌山県立医科		金城学院	3 (1)
山梨	4 (2)	京都府立	2 (1)	中京	8 (6)
信州	2 (2)	大阪公立	5 (2)	中部	3 (3)
富山	4 (4)	奈良県立医科		豊田工業	15 (13)
金沢	1	神戸市外語	1 (1)	名古屋音楽	1 (1)
福井	2 (2)	合計	39 (28)	名古屋外語	
静岡	7 (5)	私立大学		名古屋学芸	1 (1)
浜松医科	2 (1)	酪農学園	1	名古屋女子	
名古屋工業	17 (16)	岩手医科	3	南山	62 (55)
名古屋	66 (59)	自治医科		日本赤十字豊田看	2 (2)
愛知教育	4 (4)	国際医療福祉	2	藤田医科	30 (17)
豊橋技科		青山学院	7 (7)	名城	91 (71)
岐阜	4 (3)	学習院		京都産業	
三重	2 (2)	北里	1 (1)	京都薬科	2 (2)
滋賀	2 (1)	慶應義塾	23 (12)	京都女子	
京都教育		麻布		同志社	117 (86)
京都工繊		國學院		同志社女子	
大阪	32 (21)	駒沢		立命館	110 (89)
大阪教育	17 (13)	昭和薬科		龍谷	
神戸	7 (4)	芝浦工業	8 (8)	大阪医科薬科	1
奈良女子		順天堂		関西医科	2
奈良教育		上智	11 (7)	関西外国語	10 (9)
鳥取		昭和		近畿	7 (2)
鳥根		成蹊	2 (2)	関西学院	6 (6)
広島	1 (1)	成城		神戸薬科	
岡山		聖心女子		産業医科	4
山口		専修		その他	27 (19)
徳島	2 (2)	創価	1 (1)	合計	753 (523)
香川		東京医科	22 (11)	短大・文科省外・専修・各種学校	
愛媛		多摩美術		防衛医大	2 (1)
高知		中央		防衛医大	
九州	4 (2)	津田塾	2	専修・各種学校	
九州工業		東海	1 (1)	合計	2 (1)
		東京工科	1		
		東京慈恵医			
		杏林			

令和7年度大学入試結果

大学入試センターの発表によると、令和7年度大学入学共通テスト(以下、共通テスト)の確定志願者数は、495,171人で昨年より3,257人増加しました。共通テストの出願者はこの数年減少を続けており、昨年度は大学入試センター試験時代を含め32年ぶりに50万人を下回りました。そのような中で、今年度増加に転じた背景としては、18歳人口が昨年度と比較して2.7万人増加していること、私立大の総合型・学校推薦型選抜で合格者に共通テストの受験を義務づける大学が増えてきていることなどが考えられます。現役・既卒別に見ると、現役生は前年度比6.434人増加しているのに対して、既卒生は3,246人減少しており、共通テスト志願者における現役占有率は過去最高の86%になりました。ここ数年顕著になってきている現役生中心の入試傾向が

ますます強まってきていると言えるでしょう。導入から5年が経過した共通テストの基本的なコンセプトは「思考力、判断力、表現力を問う」というものであり、今年度も問題文では日常を意識した場面設定がなされ、さらに提示された複数資料を読み解きながら解答を導き出すスタイルの問題が多く出題されました。このスタイルは前身の大学入試センター試験とは大きく異なるものです。加えて、この春の令和7年度入試は新課程入試初年度にあたり、共通テストにも様々な変更が加えられました。地理歴史・公民は新しい科目に再編成され、新教科として「情報Ⅰ」も加わり、昨年度までの900点満点が1000点満点になりました。さらに、国語も満点は2000点で変わらないものの、「実用」の文章」を扱った大問が1つ加えられ、それに伴い試験時間が10分延長されるなど、新課程となって、総じて受験生の負担は増加しました。共通テストに限らず、近年、大学入試全体の出題傾向が少しずつ変わってきているのを感じます。現

在、高等学校における教育は変革の波の中にあると言えるでしょう。このような変化の中で岡崎高校はどうあるべきか。変化の時代においては、変えなければならぬ。という圧力が強くなります。もちろん、社会・時代の変化に応じて柔軟に変わっていくかなければならない部分もあるでしょう。一方で、「阿のために」という視点を置き去りにして、「変えること」自体が目的化してしまうと、今まで培ってきた大切なものを失いかねません。教育のあり方や入試形態の形式的な変更があったとしても、学ぶ上で大切な核心部分は大きく変わりません。長い年月をかけて岡崎高校が築き上げてきた「学びの軸」を見失わないようにしたいものです。3年間、岡崎高校の受験結果を別表に示します。卒業生たちが新しいステージで、さらなる飛躍を遂げていくことを心より願っています。(進路指導主事 鈴木規久)

恩師のたより

人生の価値観



川喜田 隆 司

昭和60年4月から平成10年3月までの13年間、岡崎高校に勤務していた、教員の川喜田です。

私は、小学生の頃から工作や理科が好きで、遊び道具は、寄せ集めの大工道具が入った「古道具箱」でした。小学校高学年頃から化学変化に興味をもち、近所の薬局通いが始まりました。中学校も理科クラブに入ったり、友達も理科好きな子を選んでいました。高校になると、苦手な文系科目が増え、楽しい授業は化学と物理だけ。正直学校は余り楽しい場ではありませんでした。いよいよ進路選択の時期を迎え、自分の得意科目を生かし、化学の面白さを伝えたいと、教師の道に進みました。

昭和45年に新任教師としてスタート。自作教具や演示実験など、研究熱心な先輩教師にも出会い、教材や教具づくりで知恵を絞りました。そして、教員生活16年目に岡崎高校への赴任。

三河各地から集う、学力は無論個性豊かな生徒諸君に囲まれ、身が引き締まる毎日でした。一年目は物理、二年目からは化学の授業を受け持ち、改めてそれまでの授業内容を振り返りました。「化学の面白さを伝えると言いながら、自分だけが楽しんでいたのではないか？」と気づきました。科学技術も進み、新しい粒子の発見や、目に見えないものも見える時代を迎え、理科教育の内容も大きく変わってきた時期でした。

「マクロな化学変化の現象から、ミクロな分子の

世界を想像する訓練となるような授業を目指したい。」と考え、理科研究会に参加しアイデアを頂きながら、持ち前の工作好きから様々な教具製作や演示実験を工夫しました。毎時間、岡持ちの中身を变えては教室通い。短い演示実験や模型でどれだけミクロな世界の理解が深まったかは疑問ですが、喜んでくれる生徒の姿を見ると、とても嬉しく、もっと改良できないかと思考を繰り返しました。お茶目な人を喜ばせることは好きでしたが、人に尽くすことがこれほど楽しく幸福なことと実感しました。授業のみならず、学校行事や日常の学校生活で「相手が喜ぶことを第一に考える」という私の人生の価値観を方向付けてくれたのが、岡崎高校勤務の13年間でした。

第二の人生は、父の後を継ぎ、神社の宮司として神明奉仕。神社祭典は、ひたすら「カミ」が喜ばれることをする。私の信条に合った生活です。神社は清浄が第一。神殿や境内清掃、杜の整備等々、神社へ行くと環境整備でやることは尽きません。祭典で神慮を慰める神前楽器の「八雲琴」を奉奏するため練習を始めて16年、カミに喜んでいただくには、まだまだ修行です。分け隔て無く慈愛をくださるカミの御心に、一歩でも近づけたらと思います。

人は人々に尽くすために生まれてきた。これがカミの心であり、カミの心のままに生かれば争いなど起きないはず。しかし、様々な利害関係から衝突が起きている現実を見ると、むなしさを感じます。一宗教人として、人々が幸福な人生を送れるよう、カミとヒトの中取持として、双方に喜んでもらえるよう尽力していきたいと思ひます。

様々な分野で活躍してみえる同窓生の皆さんも、対象は違つても、人のためになりたいと努力されていると思ひます。皆さんの健康と益々のご活躍をお祈りします。

令和7年度職員人事異動

◎退職者 7名		
全・定	職名	氏名
全日制	校長	高井 俊直
全日制	教諭	太田 芳男
臨時	教諭	櫛山 健
臨時	教諭	横山 太朗
臨時	教諭	森 道男
臨時	教諭	牧野 奈穂子

※再任用、任期付、臨時の任用で本校継続の職員を除く

◎転出者 13名		
全・定	職名	氏名
全日制	教頭	岩瀬 雄高
全日制	教諭	鈴木 真紀
全日制	教諭	山川 裕子
全日制	教諭	榎島 涼子
全日制	教諭	鈴木俊太郎
全日制	教諭	根市 眺美
全日制	教諭	黄 永頭
全日制	教諭	伊藤 剛
全日制	教諭	日高 慎吾
全日制	教諭	三井 健
全日制	教諭	久留宮 健乃
全日制	教諭	金子 陽介
全日制	教諭	牛田 祐貴

◎転入者 13名		
全・定	職名	氏名
全日制	校長	山脇 正成
全日制	教頭	近藤 和雅
全日制	教諭	廣野 均美
全日制	教諭	松野 雄高
全日制	教諭	岩下 唯史
全日制	教諭	鈴木 陸
全日制	教諭	木村 隆一
全日制	教諭	近藤由紀子
全日制	教諭	渡辺 雄介
全日制	教諭	三ツ矢 卓
全日制	教諭	井上 孝志
全日制	教諭	小林 弘幸

◎初任者 3名

全・定	職名	氏名
全日制	国語	倉野 果志
全日制	国語	牧野 亮志

◎任期付・臨任採用者 13名

全・定	職名	氏名
全日制	主任学芸員	江崎 寛
全日制	主任学芸員	氏崎 正行
全日制	主任学芸員	太田 芳男
全日制	主任学芸員	浅井さくら
全日制	主任学芸員	小嶋 輝久
全日制	主任学芸員	佐内 三恵
全日制	主任学芸員	鈴木 明美
全日制	主任学芸員	鈴木 紀季

◎再任用者 5名

全・定	職名	氏名
全日制	教諭	余合 昭彦
全日制	教諭	西村 直樹
全日制	教諭	大原 佳之
全日制	教諭	近藤 結子
全日制	教諭	加藤 高明

令和六年度二・中・岡中・岡高 同窓会懇親会開催報告

令和6年6月9日(日)、岡崎市竜美丘会館にて懇親会が開催されました。高47回生がメインの幹事学年として企画・運営を行い、古稀を迎えられた高25回生(昭和48年3月ご卒業)及び定23回生(昭和48年3月ご卒業)のご長寿をお祝いいたしました。当日は同窓会役員の皆様をはじめ、諸先輩方や恩師の皆様、そして旧友たちに大勢参加していただき、盛大に開催することができました。

岡崎高校卒業後30年目を迎える卒業年次が中心となつて幹事を務め、先輩方のご長寿をお祝いする伝統ある行事ですが、新型コロナウイルス感染症の分類が第5類へと変更となつて一年余り、大きな影響もなく開催することができました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、幹事学年の心配をよそに、オープニングの岡崎混成合唱団による大迫力の演奏が一気に会場の熱気を高めてくださいました。近藤恵子先生の指揮の下、懐かしい昭和歌謡や会場全体を使ったライオンキングの歌声に、我々も幹事としての務めを忘れて引き込まれるようでした。

増田同窓会長、高井校長、古稀代表の山本様よりごあいさつをいただき、本多同窓会副会長に乾杯のご発声で会がスタートいたしました。歓談中にはジャズピアノリストとして活躍されている菅沼様にも即興で演奏をしていただき、会の盛り上がりには花を添えていただきました。歓談後には、四つの地域同窓会の代表の方にもごあいさつをいただき、創立130周年に向けて、同窓生の絆を再確認する機会となりました。



た。恒例の近藤恵子先生指揮による全員での校歌斉唱も大いに盛り上がり、最後は南部同窓会副会長による一本締めで会場の一体感最高潮に達しました。

今回、懇親会の準備を行うにあたり、高47回生は30名の幹事団を結成して、万全の準備を心掛けてまいりました。仕事や家族のこと等で忙しい中、献身的に準備に時間を割いてくれた同級生のありがたさを心から感じた一年でもありましたが、一つの目的に向かって力を合わせるこうした機会は、終わってみれば我々の人生の新たな思い出の1ページとなる大変貴重なものであったと思います。

最後に、今回の準備にあたって関わりのあつた全ての方に心より感謝を申し上げますとともに、令和7年度の懇親会の盛会、そしてメイン幹事学年となる高48回生のみなさんにとつても、後々まで思い出に残る素敵な活動となりますことを心より祈念いたします。

判治俊哉(高47回)

第52回 首都圏段戸会 総会・懇親会報告

2024年10月26日(土)、気持ちの良い秋晴れのもと、アルカディア市ヶ谷にて第52回首都圏段戸会総会・懇親会が開催されました。会場参加・オンライン参加合わせて137人、高2回から高74回の幅広い世代が参加しました。恩師や同級生との久々の再会や、新たな出会いへの期待に会場中が包まれるなか総会は始まりました。

冒頭、内山邦夫会長(高21回)の挨拶では、コロナから完全脱却し、コロナ前と同様の形で総会・懇親会を開催することに喜びの言葉を述べられました。



した。そして、活動がままならなかったコロナの時期を、会員からの寄付や自主的なサークル活動により乗り越えたことに謝意を示すとともに、これからみんなで首都圏段戸会をより盛り上げていこうと力強く宣言されました。

次に岡崎高校校長の高井俊直先生よりご挨拶をいただき、コーラス部が全国大会に出場すること、登山部が男女ともにインターハイに出場したことなど、岡高生が文武両道を実現し多方面で活躍していることを紹介されました。

会計報告では、会計の堀内友二さん(高32回)より令和5年度の決算報告があり、会計監査の戸田謙三さん(高25回)より会計監査報告が行われ、参加者の拍手により令和5年度の決算は承認されました。

その後、招聘恩師の内田年一先生(体育)、大河原理恵先生(国語)、小島洋平先生(数学)の紹介があり、各先生方からお話をいただきました。

講演の時間では、読売テレビのプロデューサーとしてアニメ制作に長年携わってこられた諏訪道彦さん(高30回)から「変遷するテレビアニメ」というタイトルで講演をしていただきました。諏訪さんの代表作の一つである名探偵コナンのアニメの制作秘話や、テレビ制作現場の裏話など、なかなか聞くことができない貴重なお話をいただきました。講演の中で、私が特に印象に残っていたことは、名探偵コナンの次回予告にあるネクストコナンスピントという次週の作品のキーワードに込められた工夫です。次週の放送までの間に視聴者が次週の展開や犯人を予想し、学校や職場、SNSで話題になるように、短いキーワードに様々な工夫を凝らしていること知り驚きました。

その後、段戸サークルの音楽の会による演奏がありました。名探偵コナンのテーマの演奏という粋なパフォーマンスもあり、会場全体が和やかな雰囲気になりました。

演奏後、私が伝統の岡高エールを披露させていただきました。私は応援未経験でエールをちゃんとや

り遂げられるか不安だったのですが、元応援部の福山透さん（高19回）のご指導により無事やり遂げることができました。岡高の縦の繋がりが、伝統を感じることで、とても貴重な経験になりました。

最後に校歌斉唱をして、第52回首都圏段戸会総会は閉会しました。

続いて、松尾直樹さん（高44回）の乾杯のご発声とともに、懇親会がスタートしました。同級生や恩師との久々の再会を楽しんだり、部活や趣味などの共通点を通じて世代を超えて交流をする姿が会場中で見られ大盛り上がりでした。私は、恩師の大河原先生や、剣道部の先輩方とお話することができ、非常に楽しい時間を過ごすことができました。私の同級生は、50期上の大先輩と共通の趣味のハイキングの話で意気投合し、その場で山の会に入会していました。懇親会その場きりの関係でなく、サークル活動等を通じて継続的に世代を超えた交流をすることができるところが、首都圏段戸会の素晴らしいところだと改めて感じました。



最後は、織田利彦副会長（高26回）の閉会の挨拶により懇親会は名残惜しくも閉会となりました。昨年の総会において内山田会長がおっしゃられていたコロナからの完全脱却を象徴するような総会・懇親会でした。

松尾周哉（高72回）

第105回 矢作会活動報告

関西地区の同窓会組織である矢作会は2020年に世界を襲ったコロナウイルスによる活動制約の影響で2019年を最後に開催を見合わせておりました。2024年5月、5年ぶりに関西在住の二中・岡高の多くの同窓生に加え、岡崎より高井校長先生、増田同窓会長もご参加いただき賑やかに和やかに開催することができました。

背井離郷の生活を送る同窓生にとって年に1度は同郷の仲間との語らいの持つ場として毎年開催できるように矢作会の存在をお伝えしていきたいと思いを強く致しました。

村松 徹（高43回）

第20回 そてつ会

令和6年7月20日（土）15時より竜美丘会館ロビーにて開催されました。

ご来賓の高井校長先生をはじめ参加人数は50名。ほぼコロナ禍前のように会場のテールすべてにお座りいただくことができました。古希のお祝いの対象学年である定時24回卒業の皆さまだけでなく当時の担任の先生方もご出席くださいました。さらには3月に卒業したばかりの若々しい定時73回の皆さん。その他の学年の皆さま、旧職員の先生方、現職員の先生方のご参加も嬉しい限りです。今後とも老若男女が夜の学校で学んだ思い出を共有する場所として会を続けて参りたく存じます。



大久保玉恵（高27回）

第29回 豊川段戸会

豊川段戸会第29回総会が令和6年10月20日（日）に豊橋の地にてご来賓を含め20名程の参加者の下、開催致しました。

通常の議題の承認に続き、豊川以外の会員も増加もあり、更なる会員拡大と会の発展を期し名称を「豊川段戸会」より「東三河段戸会」への変更が満場一致にて承認されました。

第二部の講演会は、岡崎市在住の歴史研究者「市橋章男氏（高24）」による「平安文学のもののははれ」と題して、大河ドラマ「光る君へ」を通しての時代考察を大変興味深いお話に一同楽しく過ごしました。



北村 誠（高24回）

幸田段戸会

主に二つの事業を行いました。令和6年9月21日に増田同窓会長による講演会を開催。「豊田工業大学の新長期ビジョンとそれを取り巻く環境」と題し、同大学の特色である「他にできないことをやる」教育についてご紹介頂きました。講演会には、幸田段戸会会員の他、高井学校長や、川合豊川段戸会副会長など20数名に参加頂き、「ためにになった」などの感想が寄せられました。

これに引き続き開催された懇親会でも、会員の近況報告や教育についての意見交換が有り、楽しいひと時になりました。

もう一つの事業の柱「地域貢献活動」として、幸田町立図書館に大型絵本と紙芝居を寄贈。令和7年

2月16日に開催の幼児向けの読み聞かせボランティア活動には、9名の会員が参加。読み手と子どもたちの世代を超えた繋がりを実感できる良い機会となりました。今後仲間を増やし、にぎやかな活動に発展させたいと頑張っています。

鈴木啓子（高20回）

部活動OB会紹介（バレー部）

今年度は、8月10日（土）に現役生徒たちとの恒例の交流会を開きました。猛暑の中でしたが、毎年のごとくOBの方々も高齢を迎えていることも話題になり夏の交流会の開催を考え直そうということも話題になったのが現状です。今年度は、現役の女子チームの競技力が高く県大会の出場を果たしてくれました。そのためOBたちが試合会場へ応援に向き現役選手たちを激励することができました。今後もこのような応援を継続して行っていきたいと考えています。

三浦之照（段度クラブ事務局 高26回）



弁論部全国大会出場報告

「第二十九回全国中学・高校ディベート選手権」(以下、ディベート甲子園)に出場し、優勝することができました。その際、OB・OGをはじめ多くの方々からご声援をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

今年度は大会に出場する選手や役割分担を生徒同士の話合いで決定しました。複数の候補者の中から、自他ともに実力が認められた者が選手となりました。その際、多くの部員が岡崎高校弁論部の勝利を一番に考え、自分の立場を決定したのが印象的で

した。そして選手が決まっただけでは、各々が自分の立場でできる最善の行動をとりました。そのようなチーム

ワークの良さは、東海大会や全国大会でも発揮されました。私が印象に残っているのは、準決勝直前の生徒たちの様子です。選手もサポートも、試合が始まる直前まで原稿を直したり、資料を印刷したりして、何かしらの役割を見つけて行動していました。また選手たちがもつ勝利に向かう情熱と緊張感は、まわりの人々を動かす原動力になっていました。

この大会で彼らが得た充実感や達成感は、更なる弁論への情熱となり、後輩たちが受け継いでくれると思います。このような感動の瞬間に立ち会わせていただけたのは、技術的な指導をしてくださる卒業生の方々をはじめ、多くの先生方や保護者の方々の支えがあったことだと存じます。今後も弁論部への温かいご支援、ご声援を宜しくお願いいたします。

(文責 弁論部顧問 藤井瑞貴)

コーラス部全国大会出場報告

今年度は6年ぶりのNHKコンクール全国大会出場を果たし、全国にハモニーを届けることができました。全日本大会では、9月28日に石川県で開催された第77回中部合唱コンクール高等学校部門Bグループの部において、金賞に加えて、石川県教育委員会賞をいただくことができました。その後、NHKコンクール全国大会と全日本大会全国大会に向けて日々の練習を必死に取り組んできました。今年度はNHKコンクールの自由曲は松下耕さん作曲の「匂い」2群の混声合唱のための「光三首」



から」全日本大会は同じく松下耕さん作曲の「螢螢」2群の混声合唱のための「光三首」から」に挑戦し、課題曲の「明日のノート」や「Deep River」と共に歌いこみました。大変な難曲でありながら、過去の先輩方や恵子先生から受け継いできている「歌うは訴ふ」という言葉を胸に、一人ひとりが楽曲への解釈を深め、恋する人間たちの甘い「匂い」の世界や、螢が生と死を往来し新たな生命の誕生を感じさせる壮大な世界を表現することができるよう、努めました。

その後、10月12日にNHKホールで行われたNHKコンクール全国大会では優良賞、同26日ソニックシティで行われた全日本合唱コンクール全国大会において、銀賞をいただき、これまでの精一杯の努力を評価していただくことができました。

しかし、全国に出場している他の高校さんの演奏を拝聴する中で、一音一音の音程が全くぶれない繊細さと各パートの音が重なる心地好い一体感といった合唱のレベルの高さを感じました。来年度も共に全国大会に進出し、もう一つ上の段階の賞が獲得できるよう、部全体で基礎から実力を磨いていきます。(文責 コーラス部顧問 堀 輝波)



放送部全国大会出場報告

昨年8月に岐阜で開催された第48回全国高等学校総合文化祭(以下、全国大会)に、放送部の柳本遙さん(当時3年)が出場しました。その際には、同窓会より多大なる御支援をいただきました。この場をお借りして、御礼申し上げます。

今回、柳本さんが出場した朗読部門では、小説作品から一場面を抜粋した原稿を事前に作成し、当日読み上げます。その審査項目には、発声やイントネーションといった基本的な技術はもちろん、物語の内容を把握した上での間の取り方や場面選びも含まれます。

本校放送部には、アナウンス・朗読班と動画制作班がありますが、柳本さんは入学当初、動画制作班の一員として活動していました。朗読に挑戦し始めたのは1年の秋で、そのわずか1年後に行われた愛知県高等学校総合文化祭県大会において、上位3名に与えられる優秀賞を受賞し、全国大会への切符を手に入れました。さらには、2年のときは放送部の部長も務め、文化祭や予餞会といった各行事の準備で忙しい合間を縫って原稿を書き、発声練習を行い、一学年上の部員に続き2年連続での全国大会出場を果たしました。

今後も放送部への応援をよろしく願います。

(文責 放送部顧問 原田 耀)

登山部全国大会出場報告

今年度、初めて男女そろってインターハイ出場を果たすことができました。その際にはOBの方々から多大なるご支援をいただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

女子は昨年度に続き2回目、男子は3年ぶり4回目のインターハイ出場となりました。これまで男女そろってインターハイ出場することを目標に日々の練習を頑張ってきました。その目標を達成できたことをとてもうれしく思います。



インターハイは8月2日から6日まで福岡県添田町の英彦山山系(英彦山、岳滅鬼山)を舞台に行われました。男女ともよく健闘し、男子は98・1点で10位、女子は97・3点で15位という成績を取ることができました。ともに上位入賞まであと少しのところまでせることができました。

来年度も男女ともにインターハイ出場することはもちろん、上位入賞を果たすべく、1・2年生も練習に励んでいます。今後とも応援よろしく願います。

(文責 登山部顧問 小島洋平)

英語スピーチコンテスト全国大会出場

令和6年8月1日、仙台市にて開催された全国国際教育研究大会英語弁論部門に、本校2年の加茂拓真くんが出場しました。加茂くんは令和5年度本校文化祭の英語スピーチコンテストに応募し、本校代表として昨年9月の愛知県高等学校スピーチコンテスト西三河予選に出場しました。そして、西三河予選で見事優勝して県大会に進出。県大会の場で国際教育研究大会の東海北陸ブロックに愛知県代表として選出され、今年2月に東海北陸を1位で通過して本大会に進みました。

大会に向けての準備を進める中で、加茂くんは「もつと良い言い方はないか」「もつと上手に表現できないか」と自問しながら、それぞれの大会でもらった審査員からのコメントを熱心に見返し、何度も推敲と練習を重ねました。部活動としての大会ではなかったため学業や部活との両立が求められました。が、限られた時間の中で全てのことに対して最後まで決して手を抜かず取り組みました。本番では、アメリカに住んでいたときの体験をテーマにしたスピーチを披露し、その表現と態度が高く評価され、



「国際協力機構理事賞」を受賞しました。この素晴らしい成績は、本校、愛知県、東海北陸地区の代表として、彼が全国の舞台で立派に戦い抜いた結果です。今後も彼の活躍が他の生徒たちの励みとなり、後輩たちが彼に続いて英語スピーチに挑戦してくれることを願っています。

(文責 英語部顧問 久保田陽子)



令和6年度 部活動報告

全日制

野球部

(男子46名 女子2名)

今年度は1年生14名が入部しました。大人数ですがチームワークが良く、練習では互いに切磋琢磨しております。限られた時間と練習環境ですが、部員は前向きに野球に取り組んでいます。練習メニューを自分達で考え、「やらされる」ではなく、「自ら進んでやる」というスタイルで練習しています。

文武両道を掲げ、貴重な時間を使い効率のよい練習に努めています。OBの皆様の温かいご支援に感謝しています。今後とも変わらぬ応援よろしく願います。

ソフトテニス部

(男子39名 女子26名)

県下で最も熾烈な争いが繰り広げられているといわれる西三河地区において、本校ソフトテニス部は県大会、さらには東海大会、インターハイ出場を志

し、日々練習しております。令和6年度の総体予選団体戦では、男女ともに県大会に出場できませんでしたが、男子個人で「田崎・三田組」が県大会に出場しました。その後、新チームに代替わりをし、9月に行われた新人戦では、男子団体と、男子個人で「岡本・佐野組」「山崎・鈴木瑛組」「村本・若水組」が県大会に出場しました。現在も春の総体予選団体戦での県大会出場を目標に掲げ、練習に励んでおります。今後ともご支援よろしく願っています。

卓球部

(男子34名 女子13名)

総体予選では、一年生の女子一名が県大会に進出し、県大会でも瑞穂の選手から勝利をあげることができました。新チームでは男女とも戦力がアップして、男子は夏の西三河リーグ戦において、一部で準優勝、女子も二部で準優勝と結果を残し、新人体育大会での県大会出場を目指して猛暑の中練習に励みました。新人大会の西三河予選においては、組み合わせにも恵まれ、男子が7位、女子は5位に入賞し、男女とも県大会に出場することができ、県大会においても初戦で敗れましたが、いい試合をすることができました。女子では東海選手権本戦に出場し、市民大会に入賞するなど個人戦でも良い結果が出ています。現在、部員一同、総体での連続県大会出場をめざして熱心に練習に励んでおります。卒業生の方々も是非後輩を鍛えに練習に参加してください。

バレーボール部

(男子38名 女子13名)

バレーボール部は、自分たちで練習メニューをしっかりと考え、向上心をもって日々熱心に練習に励んでいます。そして、練習試合で状況を確認し、大会結果へつなげていきたいと考えています。今年度は、男子は西三予選を勝ち抜き、県大会出場を目標に、女子は県大会で1勝することを目標に、部員全員力を合わせて頑張っていきたいと思えます。また、今年度も8月にOB・OG会を実施することができました。今後ともご声援のほど、よろしくお願いたします。

バスケットボール

(男子41名 女子24名)

男子は、部員同士で互いに意見を交わしあいながら自分たちのバスケットを作っていくことを目標に活動しています。それぞれが自分の強み弱みを理解し、チーム一丸となってプレーし、大会では多く勝ち進めるよう日々練習に励んでいます。女子は、日々、切磋琢磨しながら、向上心を持って活動しています。各部員、チームの目標達成を目指し、前向きに練習に取り組んでいます。今後、部員同士協力しながら、励んでいきます。

ラグビー部

(男子18名 女子5名)

今年度は一年生が十人(うちマネージャー二人)入部し、二・三年生十三人(うちマネージャー三人)の二十三人で活動しております。今年度の新人戦も十人制の大会に出場し、愛知県第二代表として東海大会に出場します。なかなか人数がそろわない厳しい状況ではありますが、部員は一生懸命、ラグビーを楽しみながら結果を出してくれています。今後ともご協力よろしく願っています。

ハンドボール部

(男子39名 女子20名)

我々、令和6年度ハンドボール部は、今年も先生方や先輩方の厚いご支援、ご指導のおかげで、順調に部活動をさせていただいています。1、2年生も男女ともほぼ全員が初心者からハンドボールを始めているので上達するにはなかなか時間がかかりますが、西三予選を勝ち抜き、県大会で戦えるチームを目指して日々努力を重ねています。先輩方から受け継いだ伝統を先輩へと繋いでいけるよう、練習に励みますので、これからも厚いご支援をよろしくお願いたします。

陸上部

(男子29名 女子24名)

本年度の陸上部は、1年生23名、2年生17名、3年生13名の計53名で活動してきました。春の高校総体では、昨年度に引き続き女子棒高跳で岡部陽奈が県大会へ進出し、県大会では4位で東海大会へ進出しましたが、東海大会では7位となり、惜しく

もインターハイを逃しました。秋の高校新人では、5名が県大会へ進出し、県大会では入賞者はなく、残念ながら東海大会を逃すことになりました。

体操部

(女子15名)

本年度は新入生を含め15名で練習に励んでいます。部員の多くは初心者ですが、鈴木晶子コーチのもと基礎から取り組み、大変熱心に活動しています。今年度は総体の団体種目で支部予選2位、県大会出場を果たしました。貴重な練習時間を大切に、部員・コーチ・顧問一丸となって頑張っています。応援のほどよろしくお願いたします。

水泳部

(男子29名 女子11名)

令和6年度は10名の新人部員を迎えました。生徒各個人が各々の目標を持って日々努力できていたと思います。男女とも、何名もの生徒が総体予選や新人戦で標準記録を突破し、県大会出場を果たすことができました。今年度は1名の生徒が東海大会にも出場することができました。今後各個人が満足のいく成果が残せるように、個人としてもチームとしても頑張っていきたいと思いますので、応援のほどよろしくお願致します。

柔道部

(男子1名 女子2名)

部員数は3年生3名です。少ない人数でも日々の練習に集中して取り組み、大会では一試合でも多く勝ち上がるよう地道に努力を続けてきました。それぞれが目標を持ち、その達成に向けて柔の道を歩み続けたことを誇りに思います。日々物足りなさを感じている人、ぜひ柔道部に入って自らの成長を感じてみませんか？

剣道部

(男子14名 女子6名)

令和6年度春の総体予選では団体では男子は1回戦敗退、女子はベスト8、個人では女子が3位(県大会出場)という結果に終わりました。その後新体

制で臨んだ秋の新人戦では、団体では男子は1回戦敗退でした。少ない練習時間であっても、どのように稽古に取り組めば技術の向上を図ることができるのか日々考えながら稽古に励んでいます。春の総体では県大会出場以上の結果を残せるように精一杯稽古に取り組んでいきます。OB、OGの方々、今後とも応援よろしくお願ひします。

弓道部

(56名)

令和6年度は21名の新人部員を迎えることができました。また4月から講師として新たに兼松先生に指導いただけることになりました。今年度も秋の選抜・冬の新人支部予選で男子団体が優勝する等、各種大会で活躍しております。OBの方々からは、いつも多くの応援をいただいております。感謝の想いを持って練習に励んでおります。今後も精進を続けていきます。応援よろしくお願ひします。

登山部

(29名)

今年度は、1年生8名、2年生16名、3年生5名で活動を行いました。合宿については、夏は1泊2日で金峰山で行い、春は1泊2日で明神山で実施をする予定でおります。

大会については、愛知県高等学校総合体育大会において、男女とも優勝することができ、その結果、全国高等学校総合体育大会に出場し男子は第10位、女子は第15位という結果をおさめることができました。また、愛知県高等学校新人体育大会においては、男子が優勝、女子が第2位という形で今年度の大会を終えております。同窓生の皆様におかれましては、今年度も大会出場にあたり温かいご支援をいただきまして、誠にありがとうございます。

サッカー部

(52名)

今年度は、グラウンドの南側の一部に人工芝をほりました。また、ブロックを積み上げて壁を作り、選手が壁あてを自由にできるように環境を整えました。西三河リーグも一部残留を果たしました。来年度こそは県リーグ昇格を目指します。

OB会会長山本親先生をはじめOBの皆様には、様々な御支援をいただき大変お世話になっております。夏にOB会も開催しておりますので、皆様の御

参加をお待ちしております。今後も良い御報告ができるように精進してまいりたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願ひいたします。

女子ソフトボール部

(17名)

令和6年度1年生は5名が入部し活動しております。1・2年生合わせて選手は9名と、試合を行えるぎりぎりの人数になっております。ここ8年は何とか合同チームにならずに大会へ臨んでいましたが、岡崎高校も他校と同じように今後選手不足に悩まされるような気がします。できるだけ存続できるような生徒とともに頑張っていけたらと思います。今年度のOG会も多くのご参加ありがとうございます。OG会で現役生に刺激を与えていただければ幸いです。来年度も、夏冬と2回開催しますのでお時間ありましたら顔を出していただけると嬉しいです。部員一同お待ちしております。

弁論部

(男子47名 女子11名)

弁論部は毎年8月に開催される、全国大会であるディベート甲子園への出場を目標に、活動しています。今年度は東海地区大会と、その上位大会であるディベート甲子園で優勝することができました。今後も弁論の良さ、楽しさを次の代に伝えていけるよう、生徒が活動できる環境を整えていきたいと思います。ご声援のほどよろしくお願ひいたします。

文芸部

(14名)

令和6年度の部員は、1年生四人、2年生六人、三年生四人でした。兼部の生徒も多いためですが、それぞれが時間をつくって原稿を書き、多誌「風薫舞(かざぐるま)」を年六回発行しています。発行前は、集まってきた原稿を並べ配列を考え、授業後に印刷室に籠って印刷し、製本をしています。年々文量、近頃はイラストも増えてきていて、微妙な濃淡を出すための印刷技術の伝承が行われています。発行後には合評会を開き、お互いの意見交換も行っています。来年度も、なるべく多くの生徒の皆さんに読んでもらえよう、部員一同よい作品づくりに励んでいきたいと思っています。

数学部

(男子43名)

数学部は、数学に興味・関心を持った者が集まり、教科書や受験勉強などの枠にとらわれず自由な雰囲気の中で数学を探究しています。令和6年度は「数学オリンピック」への出場と、「科学三昧inあいち」などの研究発表会および交流会への参加を中心に活動しました。また活動曜日は月・火・木で、昨年に引き続き週3日で活動しています。

英語部

(14名)

英語部は九月に実施される文化祭のスピーチコンテストで準備・運営を担当しました。当日円滑に英語で進行できるように前もって練習を重ねています。今年は英語部員からも文化祭および外部大会への出場を果たしました。

今年度は主に月曜日と木・金曜日(隔週)に活動しています。ディベートの練習や、ALTの先生とのアクティビティを楽しんでいます。

美術部

(18名)

本校では本格的なアクリル画に部員全員で取り組んでいます。文化祭では、昨年度の西三美術展に出品した2・3年生の作品(アトフエスタへ出展した作品を含む)と1年生の石膏像のデッサン、そして部員全員で描いた世界の名所を描いた作品を展示しました。また、今年度の西三美術展では、1・2年生の30号7点が出展されました。今後もさらに技術を磨いていきたいと考えています。

書道部

(20名)

令和6年度は、岡崎総合書展、高文連展、国際高校生選抜書道展(書の甲子園)に出品しました。文化祭では、作品展に加え、初の書道パフォーマンスを行いました。なお、高文連展の審査結果により、一名が来年度の第49全国高等学校総合文化祭書道部門への出品者に決定しました。

部員それぞれが、個性を発揮して表現した書作品は、とても美しいです。静謐で、真剣に書と向き合う時間を今後も大切にしていきたいと思ひます。

家庭部

(33名)

家庭部は、毎週金曜日の授業後に本館1階の調理室で活動しています。部活中は美味しそうな匂いと和やかな雰囲気包まれ、お菓子作りをしています。本年度は二年生が14名、一年生が19名と賑やかに活動しています。文化祭の食品バザーでは、昨年度同様カフェを開きました。お客さんに安全に提供する上で、多くの制限があった中、何度も試作を重ね、部員皆で工夫を凝らし、バザーは大成功でした。当日は、多くのお客さんから「おいしかったよ!」という言葉を頂き、完売した時の嬉しさ、そしてやり遂げたあとの達成感を全員で共有することができました。

美味しいものを作って皆で食べることは、幸せを感じる大切な時間です。そんな素敵な時間を共有できるように、これからも活動していきたいと思っています。

茶道部

(32名)

茶道部は毎週水曜日、講師の手島美和子先生のご指導のもと、西館の作法室で活動しています。

今年度は1年生8名を迎えて活発に活動しています。部員数は3学年合わせて32名となり、棗、茶筌、茶杓、建水、水差し、数々の道具と華やかな甘い季節の和菓子和薫り立つ深緑の抹茶に囲まれて楽しく活動をしています。

茶道部の最大のイベントである文化祭のお茶会には、先生方や多くの生徒の皆さんに来ていただきました。お茶席では、緊張しながらも、一人ひとりが日頃の練習の成果を披露することができ、充実感や達成感に満ちた1日となりました。

今後も「和敬静寂」を心に留め、部員一同お稽古に励みたいと思います。

華道部

(4名)

活動日は年間23回。楽しく和やかな雰囲気で行っています。普段は、部員が交代で来客用玄関に作品を展示させていただくことで技術の向上をめざし、文化祭では、各々が趣の違う花を前に、真剣に考えながら立派な作品を作り上げました。

写真部

(46名)

部員数が年々増加しており、今年度は昨年度より10人増えて46名となりました。主な活動は校外の高文連の写真展と、校内の文化祭や校内誌への写真提供です。

高文連主催の写真展には春にある西三支部「高校生春の写真展」、秋の西三支部「高校生の写真展」、年明けの県高文連「高校生写真展」があります。今年度もこの三つの高文連写真展に出展し、県の写真展では部長の高橋駿介君が優秀賞に選ばれて来年度の全国大会である総文祭香川大会への出展が決まりました。

校内では、行事の裏方として球技大会、体育大会、文化祭、スポーツ大会などの学校行事で記録写真を撮影しています。撮った写真は学校のホームページ、岡高新聞、学友等の校内誌等に使用されています。文化祭では会議室をお借りして写真展示のほか、写真撮影が解禁されたことに対応して写真撮影用のセットを作り、好評を得ました。行事以外の活動日は木曜日の授業後で、テーマを決めて撮影会を行ったり、撮影した写真を持ち寄ってプリントしたり、作品について話し合ったりしています。今後も芸術性の高い写真を目指し、技術の向上に努めていきます。

コーラス部

(60名)

平素より生徒達が伸び伸びと活動を続けるにあたり、コーラス部OB会からは多大な御支援を賜り、心より御礼申し上げます。

今年度も近藤恵子先生のご指導の下、「響け!心のハーモニー」を合言葉に、部員60名で日々の練習を積み重ねてまいりました。

NHK全国学校音楽コンクールでは、6年ぶりに全国大会に出場し、NHKホールの舞台上で演奏することができました。結果は優良賞でしたが、この素晴らしい経験を今後の練習に活かしたいと思います。

Nコンからさらに練習に励み、全日本合唱コンクールでは、全国大会で銀賞を受賞することができました。うれしくも悔しい結果で多くの生徒が涙を流しましたが、その後3年生は「やりきることができた」と笑顔も見せていました。

演劇部

(男子10名 女子15名)

令和六年度は一年生七名・二年生十四名・三年生四名で活動しました。岡崎市せきれいホールで開催された夏の大会で優秀賞(あわせて舞台装置賞)を受賞し、八月には念願の県大会に出場しました。パティオ池鯉鮒まで応援に駆けつけてくださった先輩方ありがとうございました。豊田市民文化会館で開催された冬の合同発表会では演技賞と照明効果賞を受賞しました。平日の週3回と課外のある土曜日の午後短時間で集中して練習に取り組んでいます。

JRC部

(8名)

JRC部は青年赤十字(Junior Red Cross)の略で、ボランティア活動を行う部活動です。希望者のみですが、夏と冬に東岡崎駅前で献血呼びかけを行いました。また校内では、ベクトルボルキヤップの回収、花壇の整備(マリゴードなど季節の花を植えました)、募金活動などを行いました。文化祭の時に能登半島地震支援やイスラエル・ガザ人道危機の募金を行いました。文化祭ではJRC部員による手作り作品の販売(売上金は募金しました)、さらに例年と同様、みあい特別支援学校の生徒の皆さんが制作したブックカバーやエコバックなどの販売を行いました。JRC部は兼部している部員が多く、全員が集まって話し合う機会はありませんが、自分たちで出来ることを考えてこれからも活動していきたいと思っています。

鉄道研究部

(15名)

今年度の研修旅行は、夜行バスにて新潟に入り、初日は北陸・南東北での班行動、二日目は長岡を起点に東京まで班行動という形で実施し、各自の研鑽を深めました。来年度については、サンライズ瀬戸に乗って四国への研修を企画しております。部室の鉄道模型はほぼ毎週改修が続けられています。部員それぞれのこだわりを活かして自由な活動を楽しんでおります。

囲碁・将棋部

(部員22名 男子18名 女子4名)

1月末現在、囲碁・将棋とも3大会に参加した。

囲碁(団体)は、春の県大会は準優勝で惜しくも全国大会を逃したが、秋の県大会では東海大会に出場した。将棋(個人)は、春の県大会で山下雄生君(3年)が第3位、秋の新人県大会で石原れいあさん(1年)が第3位の成績であったが惜しくも全国大会に進出できなかった。部員数も増え、月火金曜日授業後の限られた時間の中で対局を通して切磋琢磨している。

新聞部

(男子9名 女子7名)

今年度は部員が急増し、活動の幅が大きく広がりました。校内で配布する岡高新聞だけでなく、三河中の中学三年生に向けて岡高の魅力を伝える「岡高新聞中学生版」も数年ぶりに作成することができました。より活発な部活動を目指して、積極的に活動していきます。今後ともよろしくお願ひします。

放送部

(21名)

アナウンス班の大会結果については、3年の柳本遙が8月に全国総文祭(朗読部門)に出場し、一学年上の部員に続き、本校放送部から2年連続の全国大会出場となりました。他にも、2年の山田結以が11月の総文祭県大会(アナウンス部門)で奨励賞、1年の近藤楓奈が1月の新人大会(朗読部門)で努力賞を受賞しました。また、ここ3年間は、4月に岡崎市で行われる家康行列の広報車や中継所でのアナウンスを担当させていただいています。動画班は、体験入学・文化祭・予餞会で放映する動画の制作、文化祭ステージ発表における音響・映像面でのサポート、卒業式等の行事の配信準備等で大活躍しています。どちらの班も、先輩から後輩へアナウンスや動画編集の技術が継承されています。今後とも御支援よろしくお願ひします。

吹奏楽部

(56名)

今年度は、昨年度よりも1年生が多く入部してくれたため、全体として昨年と同程度の規模で活動することができました。

七月の吹奏楽コンクールでは、課題曲に酒井格氏作曲の「メルヘン」を、自由曲には天野正道氏作曲の交響組曲第2番「GR」を選び、練習に取り組み

ました。「GR」は、アニメ「ジャイアント・ロボ」のサウンドトラックから吹奏楽版に編集された曲で、様々なシーンで使われた音楽を組曲形式で構成されています。合唱やハーブが入るなど変化に富んだサウンドで、楽しく取り組みことができました。本番は、3年生2名、2年生16名、1年生20名という1・2年生中心の合計38名で演奏しました。結果は5位銀賞という結果で、昨年よりも順位を1つ上げることができました。例年であれば県大会に出場できる順位でしたが、今年度は西三河北地区全体として各学校の部員の減少の影響が大きく、小編成部門に出場する学校が多かったため、地区から県大会への代表数が減ってしまい、あと1歩届きませんでした。来年度こそは、県大会に出場できるよう頑張りたいと思います。

一月・二月に幸田町民会館で行われたアンサンブルコンテストと個人・重奏コンテストの西三河北地区大会には、グループを組み、部員全員が出場しました。アンサンブルコンテストでは、打楽器三重奏が金賞を受賞し、クラリネット六重奏、フルート四重奏、金管七重奏、管弦四重奏、サクセス五重奏は、トロンボーン独奏、トランペット独奏、金管八重奏が銀賞を受賞し、クラリネット独奏が金賞で県大会へ出場さらに県大会でも金賞を受賞し、本大会(中部大会)への出場を決めました。

3月21日には、岡崎市民会館で第24回定期演奏会の開催を予定しております。今回も昨年に引き続き3部構成での実施いたします。この同窓会報が発行される頃には、演奏会が成功し無事終了していることを願っております。

応援部

(24名)

令和六年度も、予餞会での応援を中心に精力的に活動してきました。今後も魂の応援を継承し、岡高生を鼓舞し続けていきます。

スーパースイエンス部

(29名)

スーパースイエンス部の昨年度の研究テーマは「紙の構造体で反発係数をコントロールする」「テスラコイルの動作解析」「エネルギー効率の高いレ

ルガンの開発」「真空砲における筒に占める球の断面積の割合と球の運動の関係」「温度と反発係数及び動摩擦係数の関係」「コーヒーの成分と水の硬度の関係」「MR流体の材料と性質の関係」「植物発電の発電量増加について」「イシクラゲを用いたマルチング材の開発」「ゾウリムシの電気走性」「CAM植物の昼夜の班列」「北山湿地におけるトウカイハルリンドウとヒメカンアオイの調査とH湿地の再生」です。昨年度も、部員各自の研究、地域貢献活動、科学オリンピック等に精力的に取り組み、充実した一年となりました。

ジャグリング部

(14名)

今年も、校内のイベントに積極的に参加しました。限られた練習場所での活動になるので、学校だけでなく自宅でも練習に励みました。練習を重ね、技の向上に努めています。

定時制

ソフトテニス部

(男子4名 女子0名)

岡崎高校定時制ソフトテニス部は、現在四名で活動をしています。

「大会で勝つためには、どのような練習をすべきか?」を自分たちで考えて、普段から部活動に取り組んでいます。

バスケットボール部

(0名)

二年連続で部員が集まらなかったため、令和7年度から部員の募集を致しません。今までご声援ありがとうございました。

文芸部

(1名)

週に二回、図書室で活動をしています。小説を書いたり、読書をしたり、公募作品を作って応募したりしています。来年度は、もっと積極的に文芸部の楽しさをアピールして、部員を増やしたいと思っています。

令和7年度総会開催報告

日時 6月8日(日) 11:00～14:00

場所 竜美丘会館

総会 参加47名 審議議案を承認

懇親会 参加者

・古希祝い(高26回、定24回)の方、58名

・一般の方、120名

企画運営担当

メイン 全日制 高校第48回(平8年卒)

サブ 全日制 高校第38回(昭61年卒)

定時制 第57回(平17年卒)

高校第54回(平17年卒)

令和5年度 同窓会会計決算報告

一般会計

収入総額 5,851,838円 支出総額 5,796,075円 差引残額 55,763円

収入の部内訳

科目	収入金額(円)
繰越金	10,028
同窓会活動協力金	3,036,358
同窓会入会金	2,034,450
特別会計より	700,000
雑収入	71,002
合計	5,851,838

支出の部内訳

科目	支出金額(円)
運営費	364,257
事業費	5,262,968
予備費	168,850
合計	5,796,075

特別会計

収入総額 15,994,632円 支出総額 700,000円 差引残額 15,294,632円

収入の部内訳

科目	収入金額(円)
前年度残額	15,994,460
受取利息	172
合計	15,994,632

支出の部内訳

科目	支出金額(円)
一般会計へ	700,000
繰越金	15,294,632

各地区同窓会のご案内

※中止や延期に関する情報は、事前に同窓会HP等にてご確認ください。

第53回首都圏段戸会

日時 令和7年10月25日(土) 13:00～
場所 アルカディア市ヶ谷
連絡先 <http://tandokai.007.jp/>

第21回そてつ会総会・懇親会

日時 令和7年7月19日(土) 15:00～
場所 竜美丘会館 喫茶ローレライ
連絡先 大久保玉恵 090-3336-4144

幸田段戸会

日時 幸田町立図書館へ本を寄贈、読み聞かせ会、その他講演会、懇親会などの行事を検討中。

連絡先 鈴木啓子(高20回)
danduseidou@yahoo.co.jp

第106回矢作会(関西地区同窓会)

日時 令和7年5月18日(日)
11時～13時(受付開始 10時30分)
場所 ホテルグランヴィア大阪19階
スカイダイニング『アブ』

連絡先 村松 徹(高43回)
<http://yahagikak2.blog.fc2.com/>

第30回東三河段戸会

日時 令和7年10月18日(土) 15時～17時
会場 「謝謝豊橋駅前店」
総会 事業・会計報告・総会後の懇親会
講演 講師 市橋章男氏(高24回)
テーマ(未定)

連絡先 豊川段戸会幹事長
北村 誠(高24回) 090-3483-9772
F-mailnacky-kitamura@ms.cavmics.ne.jp

岡高フォーラムのお知らせ

以下の通り実施いたしました。

第17回 岡高フォーラム
2024年6月22日(土) PM2:00～葵丘
参加者…45名
講師…藤井 潔氏(高27回)
演題…「二つ母校が教えてくれた『見果てぬ育種
の夢』へのチャレンジ精神」

第18回 岡高フォーラム
2025年1月22日(土) PM2:00～葵丘
参加者…61名(内WEB参加14名)
講師…嶋田 薫氏(高29回)
岐阜薬科大学特任教授

演題…「新薬の研究最前線 ～いのちに陽をもたらす～」

第19回 岡高フォーラム(岡高創立130周年記念第一弾)
2025年7月12日(土) PM2:30～葵丘
会費 無料
講師…市川雄太先生(岡崎高校教諭)
トシボ研究の第一人者

演題…「市民科学で挑む ～世界を旅するウスバキトンボの謎～(仮)」

第20回 岡高フォーラム(岡高創立130周年記念第二弾)は2026年1月ごろに開催予定です。
詳細は決定次第、岡高同窓会HP・FB等ご案内いたします。

今後も素晴らしい講師をお迎えします。是非お越しください。

岡高同窓会会報 第58号
2025年8月 発行
愛知県岡崎市明大寺町伝馬一
編集 愛知県立岡崎高等学校同窓会事務局
TEL(〇五六四)五八一五九九
FAX(〇五六四)五五一九四二二
E-mail dosokai@okazaki-h.ac.jp
ブラザー印刷株式会社
TEL(〇五六四)五一〇六五一

同窓会活動協力金の御礼とお願い

岡高同窓会会計(収入)は、本誌p14にもありますように、新規卒業生による同窓会入会金と有志の方の「活動協力金」、特別会計からの繰入金で運営されています。

令和7年度の「同窓会活動協力金」には、ゆうちょ銀行から598人(222万円)、同窓会ホームページから39人(37万円)、あわせて637人(259万円)のご寄付をいただきました。また、同窓会ホームページへの広告掲載にご協力くださっている企業も25社あります。ご支援くださった皆様のお気持ちは、同窓会活動を支える大きな力となっております。お一人お一人に、心より感謝申し上げます。

一方で、昨今の物価高騰により、同窓会の活動は単年度収支で今後、毎年約200万円以上の赤字が続く見込みです。このままでは、数年後には活動の縮小を余儀なくされかねません。同窓会員の皆様には、こうした事情をご理解いただき、岡高同窓会の活動が今後も持続できるよう、引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ビヨンド 120 ファンド

『岡高教育基金 Beyond 120 Fund』への御協力をお願い

岡高創立120周年記念事業の1つとして平成28(2016)年に創設された「岡高教育基金」は、原資2,000万円に毎年PTAや同窓会からの募金を加えて、在校生の教育活動の支援を行っています。令和6年度は、同窓会の皆様から約200万円の募金をいただきました。在校生が安心して教育活動が受けられるよう、また、夢を育むことができるよう支出を精査して運営して参りますので、皆様から多数のご厚志をいただきますようお願いいたします。

【主な支出項目】

- 1 国際交流活動 英国研修の生徒や先生の渡航費の補助
- 2 部活動の補助 全国大会等に出場した部活動への激励金
- 3 段戸山登山へのバス代補助
- 4 生徒学習活動・生活支援
屋外用テントの転倒防止用おもり100個など



屋外用テント転倒防止用おもり

なお、今年度および来年度については、岡高130周年記念事業に関する募金もあるため、同窓会活動協力金、岡高教育基金募金を一旦停止し、岡高創立130周年記念事業募金に一本化します。いただいた募金の一部を、例年の実績を踏まえて同窓会活動協力金及び教育基金として活用させていただく予定です(本誌P13、および別色紙の図参照)。ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

同窓会ホームページがリニューアルされています

<https://www.okakoudousoukai.com>

右 QR コードから新装した HP にアクセスできます。

【現在、創立 130 周年記念事業の紹介を掲載しています】

- ◎ 記念事業募金 "一般" へのご寄付が簡単にお手続きいただけます。
(注：記念事業への寄付には、"物品寄付・特定"と"一般"の2種類があります)
同窓会活動への寄付が、ホームページからネット決済が可能です。
- ◎ 記念事業募金・企業広告掲載協力金
※令和7・8年度は、記念事業募金に一本化しています。
- ◎ 同窓会事務局への連絡が投稿できます(問合せ、記事掲載依頼・住所変更など)
"物品寄付・特定"および"一般"にご寄付いただく企業の登録フォームが掲載されています。
- ◎ 同窓会報『あゝ江山』をウェブ上で閲覧できます。



企業広告の掲載を募集中！

同窓会ホームページでは、同窓生の皆様に役立つ企業広告を募集しています。ホームページ内の募集要項・申込フォームをご覧ください。メールでのお問い合わせも可能です。

- ・掲載費用：10,000 円／年（初回登録料 2,000 円）
- ・お問合せメールアドレス：okakoudousoukai@gmail.com

2023 年度版同窓会名簿 購入申込み受付中！

2024 年 1 月、同窓会名簿が 7 年ぶりに改訂発行されました。
創立以来 125 年を超える歴史の中に岡崎高校を
卒業された 37,000 余名の同窓生の絆を集約しました。
ぜひご購入くださいますようお願いいたします。
※全日制第 75 回・定時制第 72 回生までの情報が掲載されて
います。

販売価格 1 冊 **7,500** 円 (送料・消費税込み)

名簿には、毎年同窓会報の発行に並行して調査しております皆様からの更新情報を利用して、氏名(旧姓)・住所・電話番号・最終学歴・職業が掲載されています。

名簿購入を希望される方は、調査用はがきの購入申込欄にチェックを入れて返信してください。

お申込みいただきました方には、名簿を代金引換(ヤマトコレクト便)にてお送りいたします。

なお、今回お送りしました封筒の中に同封されています 3 枚の振込用紙は名簿購入用のものではありませんので、名簿代金の振込には使わないでください。

※名簿には、会員の皆様の氏名(旧姓)・住所・電話番号・最終学歴・職業が掲載されていますが、今後もより精度の高い情報を維持していくためにも、**同封の調査用返信はがきにて変更情報をお知らせください。**

お問合せ先 **ブラザー印刷株式会社 岡崎高校同窓会名簿係**
〒444-0834 岡崎市柱町福部池 1-200
電話 / 0564-51-0651 FAX / 0564-54-2405
E-mail / okakomeibo@brother-p.jp



岡崎高等学校 創立130周年記念事業ご寄付のお願い

記念事業実行委員長 増田 義彦

母校は、創立130周年を迎えます

岡崎高校は、明治29年（1896年）に愛知県第二尋常中学校として開校し、来たる令和8年（2026年）4月に、創立130周年の節目を迎えます。

大正13年（1924年）には現在の明大寺町伝馬一丁目に移転し、令和6年（2024年）にはその地で100年を迎えました。また、今も歌い継がれている校歌は、昭和4年（1929年）に制定されたものです。変わらぬ場所に母校があり、同じ校歌を歌い継ぐ——。こうした変わらない風景と歴史の積み重ねの中で、私たちは岡高生としての誇りと、世代を超えた絆を育んできました。

このたびの130周年を機に、未来を担う生徒たちの学びの場をさらに充実させるとともに、卒業生同士のつながりをより一層深めるため、記念事業を進めてまいります。

事業の詳細につきましては、同封の趣意書をご覧くださいませ幸いです。

事業目的

- (1) 現役高校生が力を発揮できる学びの環境の整備
- (2) 130年の歩みを振り返る記念式典や記録の整備

具体的には、大教室への双方向遠隔コミュニケーション設備の導入、全学年教室のICT化などを計画しています。

なお、記念講演会・記念式典は令和9年度（2027年度）に開催予定です。

募金について

創立130周年記念事業の推進にあたり、目標額を5000万円の募金活動を行います。これはあくまで皆さまのご厚意に基づくお願いですが、私たちの記念事業に込めた熱意をご理解いただき、格別のご支援・ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

令和7年度および令和8年度の募金につきましては、お振込みのご負担を軽減するため、「同窓会活動協力金」および「教育基金へのご寄付」を、創立130周年記念事業募金に一本化してお願いしております。（詳しくは右図をご参照ください）

趣旨をご理解のうえ、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

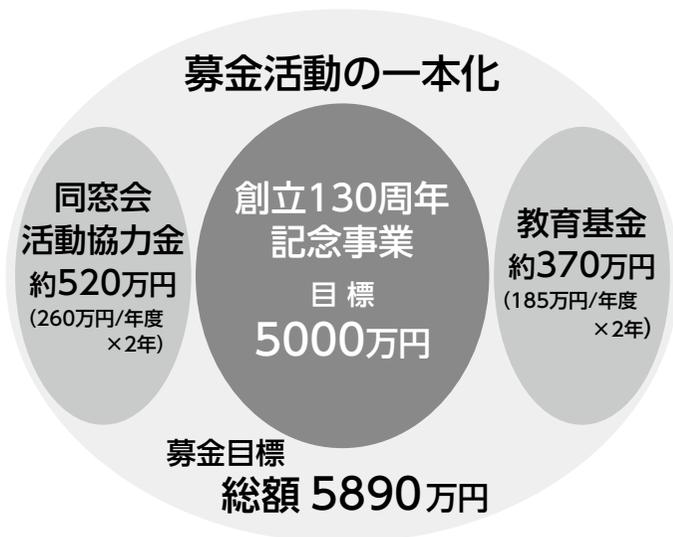


図. ご寄付は創立130周年記念事業募金に一本化し、分配する

◆ 創立130周年記念事業の募金には次の2種類があります。

- | | |
|------------------|--|
| ▷ 物品寄付・特定（税控除あり） | 学校への施設寄付 |
| ▷ 一般（税控除なし） | 記念式典・講演会事業、教育基金、同窓会活動協力金、記念事業推進費用などに充当 |

ご寄付方法については、同封した色紙の案内、趣意書をご参照ください。